

教員の職場環境

昼間の時間は、小学校では職員室に誰もいないが、中学校では教材研究のために必ず何人かいる。反対に、放課後の時間は小学校はたくさんいて教材を作成しているが、中学校では部活動でいないことが多い。小・中学校で職員室の使い方が異なるため、効率的に職員室を使えるとよい。

中学校については、学級学年経営と同時に、教科の仕事を職員室でするのか、あるいは、教科の先生方の専用スペースが必要になるのか、議論する必要がある。

教室の中だけでなく、学年ごとに教員が多少仕事ができるスペースが教室のそばにあるとよいのではないか。

職員室がガラス張りで見通しが良くなっている一方で、入りやすいという印象から、子供たちが比較的躊躇なく職員室に入る事例もある。色々な個人情報や重要書類があるため、どのようにその棲み分けや整頓をするのかというのが大事だと思う。

職員室は、共同の物品が多く、感染症対策の観点から、個人のロッカーがないと個々の対策が取りにくい経験がある。

チームとしての学校を実現するための職員室の空間を考えて欲しい。職員室は先生や学校事務職員の方や様々な専門職の方が協働しやすいような空間である必要がある。風通しの良い教職員の関係を作ること子供たちを守ることにつながる。日野の学校では、先生たちが少し気を休めながら、学年を越えてコミュニケーションできる空間づくりを考えていく必要があると思う。

デジタル化

職員室は一定のデジタル化は進めることができるとし、そこで生まれたスペースは役に立つと思う。

フリースペース、リフレッシュ空間

多摩地域の学校では、職員室の一角に、飲み物を飲んだり、食事をしたりできるカウンターのようなスペースがある。ここではリラックスできたり気分が変えられるだけでなく、大切な情報交換もできる。職員全員でなくても、数人分のスペースでもコミュニケーションはうまくいってる印象がある。

教師と教師、または教師と子供、あるいは教師と保護者が、くつろいだ落ち着いた環境でミーティングできたり、お話できたりするようなスペースも将来的には大事である。

教員になった学生たちが1年くらい経つと大変だと研究室に相談にくるが、職員室など学校が、誰かに相談できるような場となるような空間になってほしいと思う。

事務室に雑談しにくる先生は多く、先輩からも先生が休む場所だと教わり利用していた。職員室と事務室は近くてもよいが、離れて話しやすかったというのはある。

以前勤めていた学校で、第二職員室があり、いろいろな学年の先生が会話に来て、学年の垣根を越えて先生がそこでフリースペースを行っている。そういう息抜きができるスペースがあるといいと思う。

フリーアドレスゾーン

フリーアドレスゾーンで、いつ誰が座るかわからないという状況の中で、誰もが使えるという状況にしておくことは、一つの整理整頓である。

フリーアドレスゾーンを取り入れようとした学校にいたが、使い方があまりうまくいかなかった。学年をまたいで教務や生活指導など横断的な話はしやすくなってよかったが、自席がないので、作業をするのに職員室に戻らず、自分の教室にこもってしまう先生がいたことも事実。

職員室にその学年の先生がどこにいるかわからない状態だとちょっと不安なので、何年生の先生は大体この辺にいるということを把握しておきたい

体育館の性能

体育館は長辺に舞台を作ると、全校集会の時に子供たちとの距離が近くなるため、親近感がある体育館になる。

体育館は集会スペースでもあるので、音響性能をしっかり設計することが大事である。一般的な設計をすると音響性能が不安な事になるケースが多いので十分注意した方がよい。

体育館は空調性能が非常に悪い。断熱性能を高めることは、避難所として体育館が使われる際に居住環境に大きく影響するため、十分な配慮が必要。

保健室のあり方

これからは車椅子の子供も、通常の学校に入る可能性であるので、保健室からすぐに外に出たり入ったりできるように、1階に必要であると思う。

保健室は職員室に近く、1階にあるとよい。十分なスペース、休むことができるスペース、そういう保健室が職員室のすぐ脇にあるとよいのではないか。

保健室のベッドの高さは、車いす利用の子どもが乗り移りやすいような仕様になっているのかも気にしてもらえるとよい。

校庭から保健室に直接アクセスできるが、扉の前に段差があり、車椅子だと近づけない。校舎を新しく作る時にはそういうスペースはバリアフリー化してほしい。

保健室の中に相談室のようなスペースがあって、一緒に相談をしながら、子供一人一人の問題に対応していくという意味では、相談スペースが保健室にあるのは非常に大事なポイントになると思う。

来校者がくつろげる空間であるためにも、フリーアドレスゾーンのようなスペースを設定してほしい。

避難所としての学校

避難所の設営の際には、設営する施設が安全かどうかを確認してから開設になるので待ってもらうことになる。雨や雪を防ぐための屋根のあるスペースがあればいいという意見もある。

平常時・災害時を踏まえて、施設全体として職員室、保健室はどこに配置すべきか、体育館も学校ごとに道路の接道条件や敷地の形状など全て異なるものの、共通事項のような一般的なルールがあるとよいと思う。

避難訓練を実施したが、体育館の床にはいろいろな線やテープが貼ってあるため、実際にその通路の線を引いたときにわかりにくかった。避難所説明の際、ここが通路だとわかるような工夫が必要ではないか。

地域・コミュニティへの開放性

体育館の一般利用について、広域的に市町村が外部に管理を委託して学校側に負担がないようにして、スポーツをしたい方や集団で使いたい方に斡旋できるような仕組みができればいいと感じる。

臨時講師や地域の方が行事の手伝いや話に来た際に、待機や資料の準備、終わった後に一息ついていただく場所が、これからの学校には必要ではないかと思う。

地域の子供の放課後の時間や休みの日の地域開放の観点で、現状の使い勝手の悪さみたいなものが改善され、もっと学校がより多くの方に使っていただけるようになるといいなと感じる。

学校に受付事務、受付窓口のような機能があってもよいのではないか。

PTA用のスペースは、職員室のフリーアドレスゾーンでよいのか、PTA専用のスペースを設けるべきなのかを検討してほしい。